



■ 教会標語 ■ 『主の御声に聞き従う』
 主の2019年4月21日
 第100号 イースター号

日本キリスト教団
泉ヶ丘教会
 牧師 上田 真由美

〒590-0114 堺市南区槇塚台 1-1-5
 TEL/FAX 072-291-9532
 izumigaoka9532church@yahoo.co.jp

■ 礼拝・集会 ■

- ・ 主日礼拝 (日) 午前10時30分
- ・ 教会学校 (日) 午前9時
- ・ 聖書を学び祈る会(木) 午前10時30分
- ・ キリスト教入門講座・家庭集会
- ・ マリヤ会・テモテ会、他

ペトロは、こつそりと遠くから、大祭司のところへ連れて行かれる主イエスのあとについて行きます。『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。』と呼ばれて以来、主と寝食を共にし、主といつも共に一緒にいたから離れることは寂しくてたまらないという思いがあったのでしよう。あのゲツセマネの園で、主イエスを捕らえに来た敵が、乱暴な態度に出た時に、その敵の耳を剣で切り落としたような思い、つまり「自分がイエス様をお守りする！」という思いに駆られたわけ

マルコによる福音書

十四章六六〜七二



ではなく、気になってトボトボ、主イエスのあとについて行ったのでしよう。ペトロは、大祭司の屋敷の中庭で、主イエスとの関係を三度指摘されます。それに対して彼は三度否み、言い逃れをします。その言葉の調子は徐々にきつくなり、言わなくていいことまで言うようになります。彼は決して主イエスを見捨てようとは思っていません。しかし主の仲間だと言ったら、自分も一緒に裁判にかけられる…。そう思うと、恐くて、つい否定したのでしよう。ここに自分を守ることしか考えられない人の姿があります。しかし、もっと恐ろしいことがあります。

ます。「そんな人は知らない」と言い張った時、その中庭から上の方の、裁きのために立っておられる主イエスの御姿が見えたかもしれません。その御姿を見ながらも、わざと目を逸らして否定したかもしれません。それは、とても残酷で恐ろしいことです。

裁きを受け苦しめられても、その態度を決して崩されず、裁きに耐え続けた主イエスの真実さ。ところが、それとは対照的なペトロの不真実さ。かつて、「イエス様と一緒に死んでもいい」と言った彼が、ここでもろくも崩れます。

そんなことがあった後、彼はコケコッコと鳴いた鶏の声に触れてハッと思い出します、あの主の御言葉を。

『あなたは今日、鶏が二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うだろう』。つまり主イエスは「ペトロ、あなたは強がっているけれども、間もなく、わたしのことを知らないと言うのだよ」と予告されたのでした。彼が「あなたが捕えられる時が来たら、一緒に行動し死にます！」と、自信たっぷりの決意を言い得たのは、罪というものがよく分かっていたからで

しよう。その一方で主イエスは、罪は宿命のように人間にまわりついていくだけではなくて、止めようとして止められるものではない、そういう恐ろしさがあることをよくご存知であった。だから、こう予告なされることのできたのでしよう。

主イエスのこの予告・この御言葉を思い出したペトロは、この御言葉の何に泣いたのでしようか。「ペトロ、あなたには出来やしないよ」とバカにされたように感じたから、泣いたのでしようか。そうではなくて、この御言葉の中に、主の真実な御姿を見て、そして自分の罪に気づいた。主はこうおっしゃりながら、もろくも決意崩れるご自分の弟子を見下したり、「あなたなんか知らない」と突き放したりしないで、その弱さを受けとめ、その罪を赦して、裁きを受けに。そう気づかされたから、泣き崩れたのではないでしようか。

現代の私たちにとって、主の御言葉はどこにあるのでしようか。それは、十字架にあります。究極的で具体的なあの十字架の御業にこそ、主の御言葉がどんなに真実であるかがはっきりと

示されています。

ペトロは、主イエスが十字架につけられた時に、その十字架のもとにいませんでした。逃げていました。再び主イエスを見捨てたことになりました。またもや泣き崩れたことではしよう。

しかしそんな弱り果てた彼のもとに、復活された主イエスが現れ、そしてその彼を再びお立てになるのです、指導者として。彼は立ち上がったわけですが、それは到底、彼自身の決意や力といったものではないでしょう。彼を立ち上がらせたもの、それは、死に打ち勝ち、復活された主イエスとの出会いからいただいた主の御言葉の真実さでしょう。ただ一つ、十字架と復活に見ることが出来る主の真実さ、主の赦す愛こそが、人を弱り果てたところから立ち上がらせる力となるのです。